

次期（第二期）墨田区子ども・子育て支援事業計画策定に向けた課題整理

1 計画策定の主旨

教育・保育、地域子ども・子育て支援事業（例えば、子育てひろばやファミサポ等）の提供体制の確保や事業の実施を円滑に行うために、子ども・子育て支援法に基づいて計画を定める。（ニーズ調査は、その提供体制を把握するために実施したもの。平成30年度実施の調査は、実態把握に必須なものに、区独自の設問を加え、実施した。）

また、次世代育成支援行動計画を内包していることから、地域における子育て支援、母子の健康確保及び増進等実施に関する内容を定める。

2 これまでの計画策定経緯

- (1) 平成17年に次世代育成支援対策推進法に基づく「墨田区次世代育成支援行動計画」を策定
- (2) 平成27年に子ども・子育て支援法に基づく「墨田区子ども・子育て支援事業計画」を、墨田区次世代育成支援行動計画を内包して策定
- (3) 平成29年、区の人口と保育需要との動向を踏まえ、墨田区子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しを実施

3 国の動向 ～基本指針の改訂方針（案）について～

基本指針には、計画策定に当たった基本的な記載事項が記されている。平成31年（2019年）6月に改正される見込み。以下はその案。

- (1) 市町村計画・都道府県計画の作成に関する事項について、制度の施行状況や関連施策の動向を反映させるため、以下の事項について追記。
 - ア 幼児教育・保育の質の向上に資するよう、市町村は、教育・保育に関する専門性を有する指導主事・幼児教育アドバイザーの配置・確保等 都道府県は、幼稚園に関する事務に従事する指導主事の教育・保育に関する専門性の確保、幼児教育アドバイザーの確保及び幼児教育センターの体制整備に努めること。
 - イ 保護者の選択を保障する観点から、幼稚園の利用希望及び保育を必要とする者の預かり保育の利用希望に対応できるよう、市町村等は、適切に量を見込み、確保の内容について公立幼稚園の入園対象年齢の引下げ等も含め検討すること。
 - ウ 国際化の進展に伴い、教育・保育施設等において、海外から帰国した幼児や外国人幼児、両親が国際結婚の幼児などの外国につながる幼児の増加が見込まれることを踏まえ、当該幼児が円滑な教育・保育等の利用ができるよう、市町村等は、保護者及び教育・保育施設等に対し必要な支援を行うこと。また、事業者等は、運営等に当たり円滑な受入れに資するような配慮を行うことが望ましいこと。
 - エ 地域子ども・子育て支援事業についても、市町村支援事業計画の中間年の見直しの要否の基準となること。
- (2) 平成28年の児童福祉法改正等による社会的養育・児童虐待防止対策に係る改正に関する事項について見直し。
- (3) 新・放課後子ども総合プランを踏まえた市町村計画・都道府県計画の作成に関する事項について追記。

【備考】

次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画策定指針の改正がある。

4 区民のニーズ（平成30年度子ども・子育て支援ニーズ調査結果より）

- (1) 教育・保育に関すること
 - ア 母親の就労状況について、フルタイムが増加し、就労していない方が減少している。また、共働き世帯が増加し、非共働き家庭が減少している。（就問5）
 - イ 定期的な教育・保育事業等の利用状況について、認可保育所は依然として高いが、幼稚園が減少している。（就問11）
 - ウ 利用を希望する平日の教育・保育事業等は、認可保育所が最も高く、次いで幼稚園となっている。また、幼梨園（預かり保育を併用）が約10%増えている。（就問15）
 - エ 墨田区がめざす子育て環境に重要なことでは、「認定こども園・保育所・幼稚園等の教育・保育事業が充実している」が最も高い。（就問36）
- (2) 子育てに対する感じ方
 - ア 日ごろ感じる不安なことは、子どもへの接し方・しつけ等に関することが最も高い。（就問26、小問18）
 - イ 不安や孤立感を和らげるためには「時には自分のための時間を持てるように、子どもを預けられる場」が最も必要となっている。（就問27、小問19）
- (3) 学童クラブに関すること
 - ア 放課後の居場所として「学童クラブ」の利用希望は、小学校低学年時では65.9%で最も高く、前回調査から増加している。（就問40）
 - イ 放課後の居場所として「学童クラブ」の利用希望は、小学校高学年時では47.7%で、習い事、自宅に次いで三番目に高く、前回調査から増加している。（就問41）
 - ウ 利用を希望する方は、平日と長期休暇中の希望が高い。（就問42）
 - エ 小学校高学年時の平日と長期休暇中の利用希望が、前回調査から増加している。（小問13）
- (4) 子育て支援事業の認知度に関すること
 - ア パパのための出産準備クラス、すみだ子育てアプリを除いて、全体的に減少している。（就問30）
- (5) 働き方に関すること
 - ア 育児休業の取得の有無について、父母ともに増加しているが、父親については未だ低い水準となっている。（就問31）
- (6) 家庭・地域等に関すること
 - ア 墨田区がめざす子育て環境に重要なことでは、「子どもの安全・安心を守るための環境が整備されている」が最も高い。（小問24）
 - イ 家での食事は、ひとりで食べる「個食」の割合が中学生・高校生等とともに減少している。（成問6）
 - ウ 成人になったときに地域活動やボランティア活動をしたいと、中学生・高校生等ともに60%を超えている。（成問9）
 - エ 墨田区が好きと回答した中学生・高校生等は、約80%となっている。（成問17）
 - オ 学校が楽しいと回答した中学生・高校生等は、約80%となっている。（成問22）

5 次期（第二期）墨田区子ども・子育て支援事業計画策定に向けた課題

- (1) 待機児童対策

現段階では待機児童の解消に至らず、共働き家庭（特に母親もフルタイムの家庭）が増加していることから今後も予断を許さない状況である。
- (2) 在宅子育て支援

子育てに不安感等を感じる保護者が多く、不安を和らげるために、レスパイトの環境が必要である。
- (3) 放課後の居場所対策

学童クラブ等を含めた放課後の居場所を求められている。
- (4) 子育て支援事業の認知度

情報の発信力の強化及びその到達に効果を持たせる工夫が必要である。

6 留意点

平成31年（2019年）秋頃、墨田区の人口推計結果の速報値が発表される見込み。この推計結果を基に、教育・保育や学童クラブ等各事業の量の見込みを算出する。